

132 E 24
(84 A 33)
(133 B 11)

特 許 庁
実 用 新 案 公 報

実用新案出願公告
昭39-22583
公告 昭39.8.7
(全1頁)

点滴燭用容器

実 願 昭 37-53508
出 願 日 昭 37. 9. 18
考 案 者 石井宏市
東京都中野区桃園町29
出 願 人 吉野弥太郎
東京都江東区大島町3の110

図面の簡単な説明

図面は本案品の半縦断面図を示す。

発案の詳細な説明

本案は内容液が連続流下せず確実に点滴となるようにした点滴用燭の改良に係るもので、軟質製の点滴用燭1を包含する硬質製容器2のほぼ中央に透孔3を設けた事の特徴とするものである。

従来の点滴用燭は軟質合成樹脂等で形成し燭に柔軟を持たせ、該柔軟な燭の中央を押圧して点滴状にしていたのではあるが、度々燭中央が強く押圧され内容液が連続流下してしまい点滴用燭の役目をしなかつた等の欠点があつた。

本案は従来の点滴用燭の上記欠点を欠除して確

実に内容液が点滴状となるようにしたものである。

これを図面について説明すると点滴孔4を有する点滴用燭1の大部分を包含する硬質製容器2のほぼ中央に指等で燭1を押圧出来る位いの透孔3を穿設しかつ該容器の頂壁部分に接合あるいは螺着等をする環状体5を燭1上部に嵌装しさらに燭1の螺部に螺合する蓋6の下方にローレット等を設けてなるものである。

以上のような構造であるので従来のように点滴用燭を押圧しすぎることなく指頭にて点滴用燭1を包含する硬質製容器2の透孔3へ挿入すれば適度に押圧され点滴孔4より連続流下することなく確実に点滴状に出せるのである。

また本案の蓋6の下方に設けたローレットにより蓋の嵌脱が簡単でありさらに容器2も環状体5蓋6を適宜な色彩にて着色すれば意匠的にもすぐれたものとなる。

実用新案登録請求の範囲

図面に示すごとく軟質製の点滴用燭1を設けこれを包含する硬質製容器2のほぼ中央に透孔3を設けた事の特徴とする点滴燭用容器の構造。

